

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ **岡本から川部を歩く**

講師 川崎 正視（高松市文化財保護協会事務局長）

日時 平成30年3月11日（日）



共催

高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

1 岡本・川部

○岡本村(おかもとむら・現岡本町)

江戸期から明治二十三年(一八九〇)は岡本村で古代では香川郡西の中間郷に属しました。明治二十三年、川岡村の大字岡本となりました。

○川部村(かわなべむら・現川部町)

江戸期から明治二十三年は川部村で古代では香川郡西の河辺郷に属しました。明治二十三年、川岡村の大字川部となりました。

○川岡村(かわおかむら)

明治二十三年川部村と岡本村が合併して川岡村となりました。

昭和三十一年(一九五六)川岡村が高松市に合併し、川部町、岡本町となりました。小学校区は川岡小学校。

○高松琴平電気鉄道(株)・ことでん岡本駅

・大正十五年(一九二六)十二月二十一日 琴平電鉄の栗林公園〜滝宮が開通、岡本駅開業

・昭和二年(一九二七)三月十五日 滝宮〜琴平が開通

・昭和二年四月二十二日 高松(現在の瓦町)〜栗林公園が開通

・昭和十八年一月 高松琴平電鉄が発足

・昭和二十三年二月十八日 高松(現在の瓦町)〜片原町が開通。

・昭和二十三年十二月二十六日 片原町〜高松築港(仮駅)が開通。

・昭和三十年九月十日 高松築港・本駅に移転。

奈良須池の西岸(池の一部も敷地)に岡本駅ができたのは、今から九十一年も前です。電の敷地の一部は今も小田奈良須両池土地改良区の所有地があり、奈良須池の西端の一部が埋め立てられて敷設置されたと考えられます。

開通の経過を見ると、最初の頃の工事の速さが目立っています。まだ土木機械などが発達していない時代当時の作業の進め方に驚きを感じます。

※奈良須池畔の岡本駅近くに昭和十二年(一九三七)に岡本遊園地が開設され、花火大会や菊人形などにぎわいましたが、戦争の拡大等で昭和十八年に廃止となりました。戦後、駅周辺では岡本劇場(後に岡本映画館)ができましたが、昭和四十年に廃館となりました。また、遊園地跡に平和劇場ができましたが、こちらも同じ頃に廃止となりました。

2 旧金毘羅街道

高松城下から金毘羅さんを目指す往還。常磐橋、円座、岡本、滝宮を経て金毘羅宮へ向かう金毘羅街道が江戸時代から岡本を通っていた。「香川県歴史の道調査報告書 第七集 金毘羅街道」高松道」には、次のように記載されています。

「・・・細道に入って二十メートル程進むと道の左側に、「左高松道」「右仏生山道」「紀元二千五百六十年」などと刻んだ、明治三十七年の道標が建っている。琴平方面から見ると、直進すれば高松、右の幅二メートルの小道を進むと仏生山というわけである。・・・この道標をこえると岡本町である。岡本はかつて、宿場町として栄えていた。岡本から金毘羅まではおよそ五里あり、一日でちようと往復できる距離で、東讃からの参拝者にとって、泊るのに都合が良い場所だったのである。近くの古老によると、大正の頃でも宿が五軒程あり、うどん屋、風呂屋、商店などが軒を並べていたそうである。道標から六十メートル程で、再び国道三二号線と合流する。国道沿いにあるひょうたん池の堤の内側に、道に面してコンクリートの土台に乗った、文化十五年(一八一八)の金毘羅燈籠と小さな地藏堂が並んでいる。・・・この燈籠は、もとは今より五メートル程東、つまり旧国道のセンターライン付近にあったという。・・・この燈籠は、このあたりに「サンヤ」という宿があり、そこを定宿としていた高松鶴竹組講中や十二名の人々が寄進して、街道の向かい側に建てた

ものだという。金毘羅さんの奉納に際して、宿が仲介の労をとることは、琴平町内の宿でよく行われていたことであるが、街道沿いの宿でも行われていたのである。・・・細道をさらに六十メートル程進むと、右に折れる幅三・五五メートルほどの細道に入る。細道をさらに六十メートル程進むと、地蔵堂をはさむように道が分岐している。右が街道で、左へ進むのは山田への道である。地蔵堂に祀られているのは、三ツ池地蔵尊である。堂内に掲げられている縁起によると、高松藩の一家老の掌中の玉というべき娘が大病の末亡くなり、その娘の遺言によって、地蔵を建立すべく藩主に許しを求めたところ、これを許され、藩内の月参講の協力を得て、ここにその地蔵尊ができたのである。台座には、「三界萬靈」「右こんひら道」「左やまだ道」などと刻まれている。」とあります。

この道は、歴代高松藩主がたびたび通った記録があり、「殿様の道」ともいわれていました。

旧国道三十二号は、県道として開通しました。また、国道三十二号は、綾南バイパスとして平成四年（一九九二）に暫定二車線で開通しました。



3 水のはなし

高松平野の香東川西岸地区の農業用水の主な水源がこの辺り(岡本・川部・香南)にあります。

○奈良須池(ならずいけ)

高松市岡本町に属します。南側は綾川町に隣接しています。

堤高十三メートル。堤長五二〇メートル。貯水量一四五万トン。受益面積四三〇ヘクタール。

この池の場所に古くは、上池など四つの池がありました。日照りが続けは干ばつに悩まされてきました。山崎村の御蔵奉行・前田与三兵衛は四つの池を統合し、水源を遠くの香東川に求め、掛け井手による導水を計画しました。言い伝えでは、古くから大池築造の計画はされましたが完成できず、「不成」ナラズ、と呼ばれることになったといわれています。

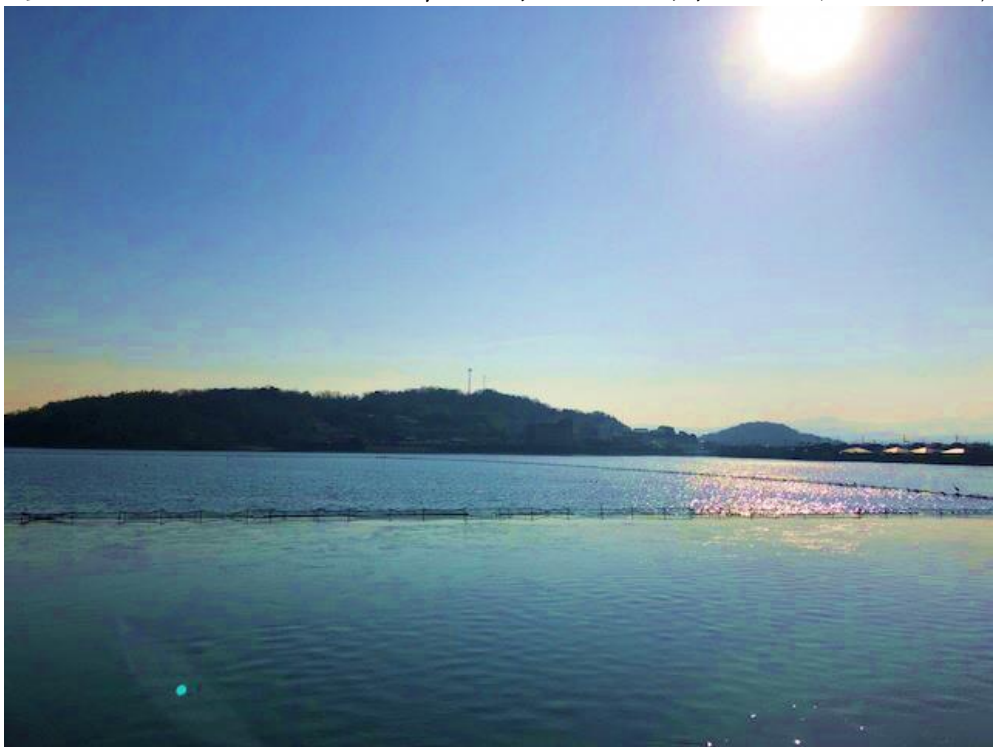


ついに、寛文十年（一六七〇）、前田与三兵衛と百姓たちの努力により自然の岩山「中山の丘」を利用して東西に堤防をつける奈良須池が完成しました。

それまで小田池と四つの小池に頼っていた岡本、川部、山崎、円座、中間、檀紙、飯田七か村の水掛りは一躍水量が倍加し、下流の中間、檀紙、飯田村では新田さえ開かれました。

池堤防の嵩上げ補強工事が昭和五年（一九三〇）と十五年と繰り返されましたが、岩崎橋南の香東川に設置の一の井堰からの掛け井手は約六キロメートルあり、沿線農民との水利紛争が築造から長い間の課題となっていました。

奈良須池は、昭和四十年から昭和五十二年にかけて施工された大規模老朽ため池整備事業により、ほぼ現在の状態になりました。



※八反池（別名 小奈良須池）

奈良須池の南で少し上にある小さな池。小奈良須池は、新しい一の井幹線水路が完成する前、香東川から奈良須池と同一水路を経て取水していた名残りと思われる。

○一の井堰・一の井幹線水路・本津幹線水路

昭和二十八年（一九五三）の内場ダム（内場池とも言う）完成により香東川水系の水事情は大きく改善しました。内場池の完成を機に、小田池が導水していた二の井堰と奈良須池が導水していた一の井堰を統合して一の井堰にするとともに導水路を一本化する工事が昭和三十一年に完成し、近代的な六八四メートルの一の井幹線水路が供用開始となりました。さらに、延長されて御厩池や衣掛池まで通水する本津幹線水路が昭和三十八年に完成し、本津川西岸まで香東川、そして後には香川用水の水が供給されることになりました。

○香川用水・東部浄水場・岡本配水池

昭和四十八年（一九七三）に「高松砂漠」と言われた旱魃（かんばつ）に見まわれましたが、昭和四十九年には香川用水が通水されました。その香川用水（東部幹線）は奈良須池のすぐ南側を西から東に走り、池の上方に香川用水奈良須分水口があります。そして、池に隣接した耳塚山南麓には香川県東部浄水場、岡本配水池もできて、奈良須池周辺は高松市と周辺地域の上水道、工業用水供給地となっています。

○小田池（おだいけ）

高松市川部町と旧香南町にまたがります。

堤高一〇・五メートル。堤長一七二メートル。貯水量一四二万トン。受益面積三八〇ヘクタール。

小田池は生駒氏四代高俊のとき、西嶋八兵衛の手によつて寛永四年（一六二七）に七年の歳月を費やして完成しました。平野部に築かれ、周囲がほとんど堤防の皿池です。

通りかかった奥方と女中スワを人柱とした伝説があります。「私は奥様のお供をしてきただけ。奥様より手厚く祀つて欲しい。」とのスワの願いを聞きいれて、奥方は池明神に、



スワは一段と高い諏訪山に諏訪明神として祀られています。

築造当時の詳しい規模は不明ですが、正保年間（一六四四～一六四八）、寛政年間（一七八九～一八〇一）、昭和五十四年（一九七九）から十年をかけて増改築が繰り返されました。かつては、岩崎橋北の香東川・二の井堰から取水していましたが、内場池の築造（昭和二十八年）に伴い、奈良須池が引いていた岩崎橋南の一の井堰、一の井幹線水路を改修して同一水路（水源）としました。

昭和四十四年には、香川用水（東部幹線）の通水を見越して、下流に弦打幹線（約八・五キロメートル）と中央幹線（約七・四キロメートル）が整備されました。小田池のすぐ北側を西から東に通る香川用水（東部幹線）への通水は昭和五十年になされました。小田池の下手の西側には香川用水古川分水口、東側には香川用水弦打分水口があります。香川用水（東部幹線）から小田池へはポンプアップにより取水できるようになっていますが、水事情の改善から現在は利用されていません。

※西嶋八兵衛により、香東川の流れを堰き止め、現在の西側に統一したのは、寛永十四年（一六三七）のことです。

※内場ダム（内場池ともいう）

旧香川郡内の人々が水事情の改善を望んで、香東川支流内場川、塩江・上西に築造した

ダム。昭和十三年（一九三八）に着工、長きを経て昭和二十八年に完成したことにより、香東川下流域に大きな恩恵をもたらしました。

流域面積二十八平方キロメートル、灌漑面積四四〇八ヘクタール、貯水量七二〇万トン、直線重力式コンクリートダム、堤高五十メートル、堤長一六四メートル、天端幅三・五メートル。

※西部幹線水利系統・・・別紙系統図

内場池に関連して整備された香東川西岸の近代的な水路で、一の井幹線六八四三メートル、弦打幹線八四五八メートル、中央幹線七四六八メートル、奈良須幹線九九六メートル、本津幹線六四九六メートル、総延長三〇二六一メートルからなっています。

※関係する水利組織「水資源の開発とその維持管理を行う組織」

- ・内場池土地改良区
- ・小田奈良須両池土地改良区
- ・香川用土地改良区

4 池辺神社(いけべじんじや)

○池辺神社・三十番神(さんじゅうばんしん)

昭和五年(一九三〇) 奈良須池西堤防で漏水が甚だしく、決壊の恐れが起きた際、関係者一同が奈良須池北畔の中山の丘にあった三十番神の前で祈禱をしたところ難を逃れました。この三十番神は、昭和十六年に池辺神社と改められ、以後山崎八幡神社の末社として祭祀されることになりました。池辺神社の堂宇が荒廃してきたので、昭和五年に難を逃れた歓喜を記念して建立された記念塔を、平成三年(一九九一)に借用改築し、旧神社から三御神体、小田奈良須両池事務所の先賢堂から一御神体を奉遷し、岡本氏子により祭祀する現在の池辺神社になっています。また、池畔の境内に一の井幹線水路の完成を記念する昭和三十二年建立の石碑が立っています。

※三十番神とは、一か月三十日を毎日交代して法華経を守護すると考えられる三十の神々のこと。初め天台宗、後に法華宗でも信仰されるようになる。鎌倉・室町期には特に盛んでした。近くでは、高松市木太町の夷にもあります。

○真光寺(しんこうじ)・三十番神(さんじゅうばんしん)

奈良須池北畔の中山の丘にある浄土真宗興正寺派の寺。

当地の豪族山崎氏は岡本村堂奥にあつた三十番神堂を、天保十年（一八三九）に奈良須池北畔の中山の丘に移しました。当時の三十番神堂は神仏混淆であつたので、説教所も兼ねていました。慶応四年（一八六八）の神仏分離令により、御神体は翌年、山崎にある本堯寺に移され、社殿は仏教各宗の説教所となり、やがて真宗の占有となりました。

その後、説教所は昭和二十一年（一九四六）に寺号を善照山真光寺としました。「真光寺の本堂は旧岡本三十番神の拝殿」

一方、紆余曲折を経て、明治四十五年（一九一二）説教所の西側に、三十番神堂が建立され、昭和十六年に池辺神社と改称され、従前の御神体は山崎の本堯寺に撤収されました。

参考文献

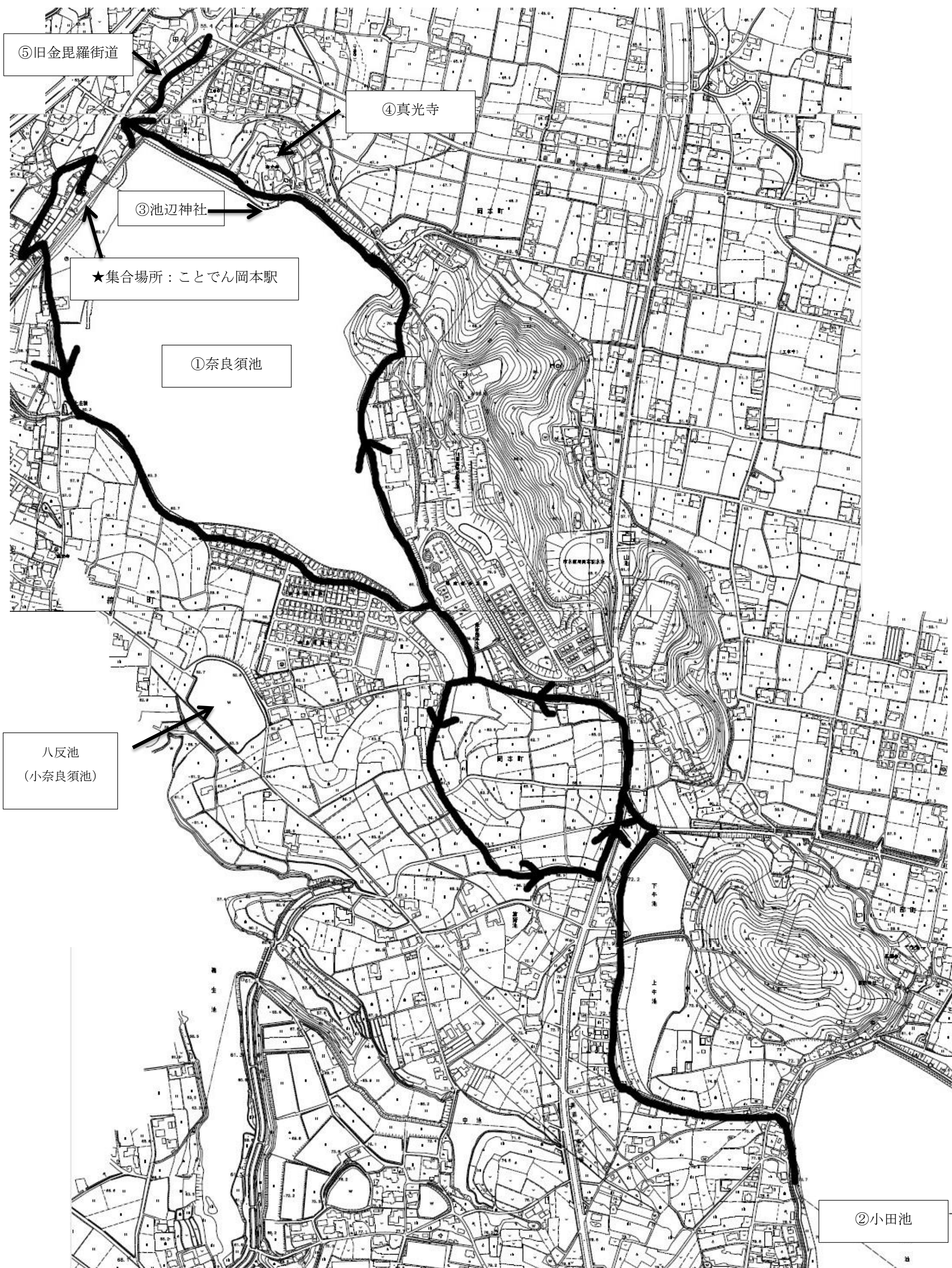
角川日本地名大辞典三十七 香川県 昭和六〇年

琴電・古典電車の楽園 平成十五年

香川県歴史の道調査報告書 第七集 金毘羅街道口 高松道 平成四年

ふるさと川岡 平成十三年

香川県内場池土地改良区史「本編」平成二十七年



3月11日（日）復路

◆ことでん

◎行き ことでん琴平線（琴電琴平行）

高松築港駅(8:30)⇒瓦町駅(8:35)⇒岡本駅(8:59)

◎帰り ことでん琴平線（高松築港行）

岡本駅(12:15)⇒瓦町駅(12:38)⇒高松築港駅(12:43)

次回のふるさと探訪は…

テ ー マ 「鬼無から飯田へ歩く」（予定）

と き 平成30年4月22日（日）9：30～正午頃

集合場所 JR鬼無駅

講 師 川崎 正視 さん（高松市文化財保護協会事務局長）

参加費 無料

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」4月15日号に開催案内を掲載しております。

☆小雨決行。当日、警報が発令された場合は、中止とします。

なお、中止かどうかは御不明な場合、午前7時30分～開始時間（9時30分）までに文化財課（Tel 087-839-2660）でお知らせします。

（電話が通じない場合は実施予定ですので、集合場所にお集まりください。）

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。

